

目次

口 絵
凡 例

第一章 明治維新と奈良

第一節 御一新と奈良 1

1 維新の政変と奈良 1

明治新政府の奈良鎮撫 大和鎮台から大和国鎮撫総督府へ 奈良県・奈良府と奈良町

統一奈良県の成立 明治初年の奈良町政と「市中規則」 浦上キリシタンの大和配流

2 大区・小区制下の奈良 14

新しい戸籍づくり 大区・小区の制と奈良 会議所の設置と小区編成替え

大区・小区の統合 徴兵令と地租改正

第二節 神仏分離と廃仏毀釈 29

神仏分離 空寺になる興福寺 諸大寺の苦難 廃滅した諸寺 宝物類の亡失と五重塔

第三節 文明開化の世相

1 学校のはじまり 40

維新时期奈良の教育 私立学校の開設 「学制」発布と学校の成立 最初の新築学校

「教育令」以後 町制下の小学校 師範学校の成立 女紅場と寧楽幼稚園 奈良の私学校

2 開化の世相 63

四条県令の開化政策 『日新新聞』と金沢昇平 人力車の普及 興福寺境内の市

奈良町の諸相 奈良博覧会

3 「解放令」と奈良 76

部落差別と「解放令」 学制と地域の動き

第四節 奈良町の推移

1 堺県時代の奈良 80

奈良町の沈滞 明治天皇の大和行幸

2 地方制度の再編と奈良 85

奈良郡役所と連合戸長役場 大阪府への編入と戸長役場の改編 町村会と町村連合会

第二章 奈良市の成立

第一節 近代都市への胎動

1	町制の施行	101
	市制・町村制と奈良	
	奈良町の成立	
	奈良町の分町紛議	
	町政の展開	
2	産業の推移	111
	沈滞から復興へ	
	奈良蚊帳の成長	
	墨と筆	
	奈良漆器	
	会社と商店	
	奈良実業協会	
3	鉄道の開通	138
	奈良から大阪へ	
	京都への鉄道	
	桜井への路線	
	関西鉄道と大仏線	
4	奈良公園の成立	155
	奈良公園の誕生	
	公園地の拡張	
	公園の改良	
	第二節 市制施行	
		161

1	奈良市の誕生	161
	奈良市の誕生	市政機関の創出
	奈良市初期の財政	当時の市会議員選挙
		草創期の市行政機構
2	日清・日露戦争と奈良市	171
	日清戦争と奈良	当時の軍隊と宮民との関係
	奈良市に陸軍第五十三連隊創設	日露戦争と奈良市
		陸軍特別大演習
第三節	教育の発達	181
1	初等教育の充実	181
	町制下の小学校	学校の整備
	検定教科書から国定教科書へ	学区の改正
		教科課程と教科書の固定
2	中・高等教育機関の設立	194
	高等女学校	実業学校
		私立学校
		師範学校
		女高師の誘致と東京美術学校移転説
3	社会教育の萌芽	203
	明治維新と民衆教育	夜学会
	石崎文庫と県立奈良図書館	実業補習学校
		青年会から青年団
第四節	文化財と名所奈良	217

第三章 奈良市の発展

1	文化財の保護	217
	立ち直る寺院	
	文化財の指定	
	文化財の修理	
	正倉院	
2	東大寺大仏殿の修理	224
	大仏殿の破損	
	大仏会の結成	
	修理事業	
3	平城宮跡の研究と保存	232
	平城京の研究と平城宮跡	
	保存顕彰運動	
4	名勝奈良の展開	238
	奈良公園の整備と諸施設	
	鹿と角伐り	
	遊覧客の増加	
	名所見物	
	対山楼と奈良ホテル	
第一節	市政の展開	253
1	大正期の奈良政界	253
	日露講和条約に反対	
	奈良における政党的動き	
	奈良市会の動き	
2	上水道の建設	260
	奈良市の飲料水問題	
	上水道建設計画	
	上水道建設事業の実施	
	上水道の完成	

3	社会政策への取組み	271
	伝染病と防疫	
	市営墓地・市営屠場	
	社会事業への取組み	
	
	271	
	第二節 経済生活の発展	276
	
	276	
1	大軌の開通	276
	大軌の創立	
	難航する路線	
	生駒トンネルの落盤事故	
	東向乗り入れ問題	
	奈良市会で乗り入れ否決	
	東向乗り入れ工事	
	大軌の開業	
	ひろがる大軌線	
2	産業経済の動向	292
	大正初年の沈滞	
	好景気と工場の新設	
	墨と蚊帳	
	近郊農業の展開	
3	都市生活の向上	301
	電灯	
	電話	
	奈良ガスの創立	
	
	301	
	第三節 社会運動の発展	311
	
	311	
1	米騒動	311
	米価の騰貴	
	米の廉売	
	米騒動	
	米騒動のあと	
2	労働運動と農民運動	319
	製墨職工の争議	
	小作争議	
	日農支部の結成	
	
	319	

3	普選運動と婦人運動	327
	普通選挙期成同盟会	
	婦人運動	
4	被差別部落の改善事業と解放運動	335
	改善事業と矯風会	
	大和同志会の結成とその活動	
	米騒動と被差別部落	
	水平社の創立と奈良	

第四節 教育と文化

1	教育の新展開	344
	小学校の整備	
	教育活動の充実	
	中等学校の増加	
	教員養成諸学校の歩み	
	社会教育の拡充	
2	日本文化と奈良	361
	伝統を受け継いだ学問	
	伝統芸術の流れ	
	近代奈良の美術界	
	志賀邸のサロン文化	
	近代奈良の美術界	
	社寺とキリスト教	
	奈良を訪れた文人たち	
3	大衆文化の登場	377
	新聞の隆替	
	ラジオ・蓄音器・映画・スポーツ	
	図書館の動向	

第四章 経済不況と奈良

第一節 經濟の苦境

1 交通網の発達 387

奈良電鉄の開通 乗合自動車 安全索道

2 商工業の低迷 396

昭和恐慌と奈良 産業構成 百貨店の進出 地元商店愛護運動
昭和十二年ごろの商店街

3 農村恐慌と經濟更生運動 409

自作農の創設 恐慌下の近郊農村 農村經濟更生運動 田原村の經濟更生運動

4 社会運動の展開 422

恐慌下の労働争議 製墨・毛筆職工の争議 恐慌下の小作争議 水平運動と融和事業

第二節 市政の動向 431

1 不況下の行財政 431

財政の硬直化 市制三十周年と即位礼 市庁舎の新営 総選挙と市議・市長選
緊縮財政 市会の混迷 市政の転換

2 都市計画と道路の整備 448

国道・県道と市道 都市計画への着手 循環道路 道路の舗装

第三節 教育・文化・観光 455

1 教育の動向 455

小学校の増設と整備 教育活動の諸相 幼稚園の開設 中等教育の発展

青年学校の発足 師範学校と女高師 軍事色の学園波及

2 文化の明暗 468

文化運動の胎動 昭和初期の大和文化研究 聖蹟顕彰運動と鶏邑

3 観光事業の発展 472

観光行政の展開 観光産業博覧会 観光施設の充実 開発と保存 若草山の呼称

観光課の活動 聖地顕彰の観光へ

第五章 戦争と奈良

第一節 戦時体制と奈良 493

1 戦争の足もと 493

満州事変と第三十八連隊 軍用機の献納 愛国婦人会と国防婦人会 防空演習

奈良師範と女高師 勤勞奉仕 学徒動員 学童疎開の受け入れ

2 戦時下の文化 575

紀元二千六百年と文化 大和への回帰 御物の疎開 南都諸寺の国宝疎開

第四節 敗戦と奈良 582

1 決戦体制下の市民 582

戦局の悪化 市民生活の窮乏 罹災者の受け入れ 国民義勇隊

2 空襲と敗戦 588

防空壕 六月一日の空襲 敗戦 文化財とオーナー伝説

付表

あとがき

執筆者・執筆分担一覧

凡 例

- 一 本巻には、明治維新から太平洋戦争の終結までの時代を収めた。
- 一 本巻の執筆者と執筆分担は巻末に記した。
- 一 本文の叙述は、原則として常用漢字・現代仮名遣いによった。ただし、歴史的用語・固有名詞・引用文についてはこの限りでない。
- 一 本文および引用史料のなかには、身分や職業に関して、当時の差別的名称で記されている部分があるが、差別の歴史を科学的に研究する立場からそのまま掲載した。
- 一 年代の表記には日本年号を用い、小見出しごとに初出の年号についてはその下の（ ）内に西暦年を付したが、その他については必要に応じて付記するにとどめた。
- 一 図表には各章ごとに一連番号を付した。二ページをこえるものは、昭和初年の農業統計などとともに巻末の付表に収めた。